



夕陽会創立100周年記念号

第225号



◇巻頭言◇

創立百周年を迎えた喜びと責任

夕陽会会長 藤川 隆

(昭和48年卒)

九月六日に発生した胆振東部地震により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、二年間にわたり計画・準備を進めてきました「夕陽会創立百周年記念事業（美術・書道展、式典、祝賀会、講演会）」を盛大に開催することができました。

これまで多くのご苦労やご尽力をいただきました実行委員会の皆さんに、心より感謝申し上げます。

また、この度の記念事業の実施に際し、函館校の後藤キャンパス長様はじめ、教職員の皆様には全面的に協力していただきましたことに、厚くお礼申し上げます。

さらに、全国各地から世代や職種を超えて記念事業に参加してくださった多くの会員の方々に、改めてお礼申し上げます。

式典及び祝賀会は、やむなく二つの会場に別れての開催となりましたが、創立百周年という歴史的な瞬間に出会えた喜びを参加者全員で共有できたものと確信しております。

ご承知のように、百年前の大正七年九月に、函館師範学校同窓会が創立されました。その会則・第三条に、「本会は正会員相互の向上、親睦を

図り、兼ねて本道教育と拓殖事業との連関を一層密接ならしめんことを期す」と同窓会の目的が定められております。

当時、北海道で盛んに進められていた拓殖事業の根底的原動力は教育にあるという強い信念のもと、全道各地で教鞭をとる同窓が絆を深め、教師としての資質能力を高め合おうとした大先輩たちの熱い思いを読み取ることができます。それは、母校開学の精神である「土地墾闢、人民蕃殖」を支柱とした函館師範スピリッツであります。

私たちは、このたくましい函師スピリッツを一世紀にわたり連綿と受け継ぎ、「創造し行動する夕陽会」を標榜し、互いに切磋琢磨し合いながら道内外の教育や文化の振興・発展に寄与し続けてきました。このことは、今後も大切に引き継がなければならぬ夕陽会の伝統であり、誇りでもあります。

今、創立百周年という大きな節目を迎え、「国際地域学科」として地域の活性化に貢献できる人材を養成する母校の現状を踏まえ、夕陽会の伝統に何を加えるべきなのかを明確にして、新たな歴史の一步を踏み出す責任の重さを強く感じております。

厳粛かつ華やかに挙行 夕陽会創立百周年記念式典

平成三十年六月二十三日（土）、ホテル函館ロイヤルにおいて、来賓、会員五百五十人が参列し、夕陽会創立百周年記念式典が執り行われた。副幹事長の五十嵐義幸（H元卒）が司会を務め、式典オープニングとして、母校函館校吹奏楽部による「FANFARE AND FLOURISHES」の荘厳な演奏。指揮は三笠裕也（H18院修）。続いて、これまで逝去された諸先輩の冥福を祈るとともに、多くの災害等により犠牲になられた方々への弔いの思いを込め、出席者全員で黙祷を捧げた。開式に当たり、副会長の伊藤皓嗣（S44卒）が、この度完成した記念誌「夕陽が丘」を紹介し、母校や同窓会の歴史を振り返りつつ、一層の発展を祈念し記念式典を挙行すると力強く宣言。吹奏楽部の生演奏で夕陽讃歌を声高らかに斉唱し、会場の空気が一気に盛り上がる。



はじめに藤川隆会長（S48卒）が式辞を述べた。大正七年九月に、函館師範学校第一回卒業生古谷全（ふるやたもつ）氏が代表幹事となり同窓会を創立し、以来一世紀にわたり歴史と伝統を築き上げ、同窓の絆を深めながら、道内外の教育、文化の振興・発展に寄与し続けてきた。同窓が全国各地で築いてきた業績が大きな評価を得ていると、その歴史と伝統

を振り返った。現在、母校函館校が国際地域学科として、地域の活性化を担う人材を養成している。このことを踏まえ、夕陽会は教育、行政、企業など各界で活躍する同窓、OB・OG、さらに母校で学ぶ学生をつなぎ、地域の活性化を目指すネットワークづくりの役割を果たせるように、その裾野をさらに広げていくことが必要であると強調した。結びに、これまで夕陽会を支援してくださったすべての方への感謝の言葉とともに、同窓の絆を一層強め、夕陽会の新たな歴史に向けてしっかりと次の一歩を踏み出したいと決意を述べた。

ご来賓の北海道教育委員会教育長 佐藤嘉大様、函館市長 工藤壽樹様、北海道教育大学学長 蛇穴治夫様の三名から祝辞をいただいた。

別支援教育担当局長 磯貝隆之様は、夕陽会が創立以来、会員相互の交流、研鑽に努めるとともに母校における教育、研究への支援を続け、その発展と北海道の教育の振興に力を注いできたと述べ、深く敬意を表した。その上で、世代や職種を超えて情報交流や親睦を深めるなど、後輩の育成や地域の活性化に取り組み、今後も教育の振興に尽力いただきたいと期待を述べた。

工藤市長に代わり、副市長 中林重雄様は、夕

陽会が歴代会長、役員、関係各位の努力のもと、広く北海道の教育の発展に貢献し、多方面に人材を輩出するとともに函館市役所にも百五十名もの同窓がいることを伝えた。そして同窓生が函館の地から日本各地、さらに世界へと羽ばたき、様々な分野で活躍することを期待していると述べた。



蛇穴学長様は、夕陽会の大学への協力や支援、学生への励ましや応援に対するお礼と師範学校以来、優秀な教員を輩出してきたことに敬意を表した。函館校が社会状況の変化への対応として新課程の設置やキャンパスの機能分化、平成十八年の人間地域科学課程、平成二十六年の国際地域科学課程へと生まれ変わったことについて言及。その中で幼児児童の教育や特別な支援を要する子どもの教育を行う教員を養成する地域教育専攻を設置。さらに、平成二十九年からは教職大学院を函館キャンパスに設置して、地域の教育課題等に向き合う体制を築いたと説明。教員をはじめ様々な職種に就職する学生に対して、同じ同窓生として頼もしい若者をこれまで同様を迎え入れてもらいたいと述べた。

祝詞・祝電披露は、副幹事長の太田千佳子（H4卒）が八名の方々からのお祝いの言葉を読み上げた。功績者表彰では、藤川会長から夕陽会に多大なご功績のあった夕陽会第九代会長 川島孝夫顧問、夕陽会第十

夕陽記念館の見学会を案内した。式典の締めくくりは、式典部制作によるメモリアルDVDが会場に設置された大型スクリーンに映し出された。夕陽の四季の光景、師範学校以来の変遷、学校行事、同窓会活動等、大正、昭和・戦前から戦後そして現在に至るまでの歴史を振り返る数々の懐かしい写真が、夕陽讃歌や寮歌等のBGMとともに「映像でつづる夕陽会百年の歩み」として紹介された。会場のあちこちから「懐かしいなー」の声が…。

閉式に当たり、副会長の島津彰（S48卒）が、百周年の慶事への心温まるお祝いや励ましの言葉へのお礼とともに、百周年の次を目指して決意を新たにしたりと語り、今後の一層のご支援とご鞭撻をお願いし、声高らかに閉式の辞を述べた。参加者は感動を新たに、来賓や旧友と挨拶を交わしながら、高鳴った鼓動を胸に祝賀会場へと…。

（平成16年卒 式典部 伊藤 光 記）

夕陽会創立百周年記念祝賀会

六月二十三日（土）快晴。

開会前より、熱気が渦巻く会場、ホテル函館ロイヤル。

そこそこにあふれる笑顔、再会を懐かしむ声。肩をたたき合う姿。

夕陽会創立百周年記念祝賀会は、八百十五名の参加者が二会場に集いました。

まずは九十名を超えるご来賓が、大きな拍手に迎えられてのご入場。

続いて訪れた静寂の中に感じられる高揚感に込めるように、第一会場ロイヤルホールの太田千佳子副幹事長（H4卒）の開会を告げる声が響きます。

そして、いよいよ竹嶋充副会長（S56卒）の第一声の下、会は幕を開けました。

勝海文孝先生（S62卒）の指揮により、百周年を祝う参加者の気持

ちが一つとなった夕陽讃歌の大合唱が二つの会場に響き渡ります。

続いて楽友会の皆様が登場され、素晴らしい歌声で校歌と学生歌が披露されました。



余韻冷めやらぬ中、挨拶に立たれた藤川隆会長（S48卒）から、式典の報告と御礼、ご来賓の皆様への謝辞、出席者最高齢の桑名巖大先輩（S20卒）への敬意が表されました。

さらに「百周年を期に、幅広い地域・世代・職種の方々、現役の学生までが夕陽会の名の下にこの会場に集まることができた。本会の歴史と未来の融合、拡がり」と深まりを示すものである。本日発刊した記念誌にも目を通していただき、一世紀にわたり築き上げた本会の歴史と伝統の価値を、百周年という歴史的な瞬間に立ち会えた幸せと共に確かめてほしい。夕陽会は、百一年目に向けて力強くその一歩を踏み出していく。」と話されました。

続いてご来賓を代表して、北海道渡島総合振興局長 小田原輝和様、北海道教育大学函館校キャンパス長 後藤泰宏様から夕陽会創立百周年へのお祝いの言葉を賜りました。

北海道教育庁渡島教育局長 五十嵐晋様のご発声による祝杯の後、壇上では安島進第八代会長（S24卒）へ記念品が贈呈されることが報告され、記念の品が披露されました。製作者の中川眞一郎氏（S40卒）が、贈呈

した作品に込めた思いや安島先生への感謝の言葉を述べられ、会場は大きな拍手で包まれました。



祝杯の後には、百周年に相応しく、恩師と教え子・先輩・後輩・かつての同僚・旧友など、いたるところで談笑の輪が生まれ、若き日を振り返ったり、これからの夢や希望を語り合ったりする姿が見られました。まさに夕陽会の歴史と未来の融合を感じさせるひと時でありました。

第二会場ゴールデンホールでも、齋藤縁函館市支部副幹事長（S60卒）の進行の下、第一会場の映像を見ながら、第一会場に負けず劣らずの盛り上がりとなりました。

アトラクションとして、三笠裕也先生（H18院修）が指揮する北海道教育大学吹奏楽部による演奏が披露され、懐かしのメロディーが会場を包み込みました。

また、モダンダンスサークルが、両会場で情熱的なダンスを披露し、大いに盛り上げてくれました。



アトラクションの合間には、会場のスクリーンに今回特別に制作したDVDが映し出され、会場には母校と夕陽会の歩みに思いを馳せるしつとりとした時間が流れました。

また、ホームカミングデー担当のたくさんさんの学生が、翌日の事業の紹介に登場したのも百周年ならではの光景でした。

宴も佳境に入り、橘雄基先生（H26卒）の太鼓に合わせて古谷賢一先生（H21卒）が渾身のエールを披露。拍手喝采、会場の雰囲気も最高潮となったところで諸先輩方やご来賓の皆様がお馴染みの夕陽会の法被で登壇。小林周次函館市支部顧問（S33卒）の音頭で第一・第二会場の全員が万感の思いで寮歌を熱唱しました。

結びの乾杯は、函館市教育委員会教育長 辻俊行様（S59卒）によるご発声で行われ、全員が心を合わせての乾杯。三觥徳久副会長（S57卒）によって閉会が告げられ、夕陽会創立百周年記念祝賀会は盛会裡に終了しました。



（昭和58年卒 函館市支部会長 宇佐美 雅司 記）

記念講演会

ニッポンたて「ヨ」科め
講師：ピーター・フランクル氏



「百周年記念事業二日目のスタートは、ハンガリー出身の数学者で、大道芸人でもあるピーター・フランクル氏の講演会でした。国際地域学科のある函館キャンパス校での講演会ということで、国際的に活躍される

ピーター氏から日本という国の見え方について講演を依頼しました。ピーター氏の講演は、ハンガリーから日本に來日した時の日本、そして一九八〇年に初めて訪れた北海道の印象から始まりました。自然との出会いに感動し、特に積丹の先端に太陽が沈む光景に感動したとのこと。そんな自然豊かな北海道が気に入って、今回九十五回目の來道と聞いて大変驚きました。北海道で出会うキタキツネやヘビなどの野生動物に心躍らせるピーター氏のお人柄が、お話からうかがえました。

母国であるハンガリーについてのお話は、第二次世界大戦でユダヤ人である父が九死に一生を得たことや戦後も差別を受けたことなどから、ピーター氏自身もハンガリーという思いを語ってくださいました。数学者として研究をするためにアメリカやフランスを行き来する生活をしていた時代も経験しながら、生きるために大切なことを考えるようになったピーター氏。父からの教えである



(平成4年卒 太田千佳子 記)

「頭と心が大切」という言葉を胸に、様々な知識を得ることや人とのかわりを、これまでの人生で大切にしてきたと語っていました。様々な国で人や土地に触れあってきた経験から、現代人は好奇心が希薄になっていることを危惧しているとし、人と出会うことやかわることのすばらしさについて、これまでの経験を通して伝えてくださいました。国によって、相手にどのようなにかかわっていくかの国民性の違い、挨拶の違いについて紹介しながら、人とのかわりの中で「聞くこと」の大切さについて語られました。「聞き上手」になることは、人のかかわりを成功させる第一歩であり、聞き上手を目指して情報を受信してほしいとメッセージをくださいました。会場の参加者は、数学者であるピーター氏から、数学の問題が出されると真剣そのものに問題の解答を出そうとする雰囲気になりました。ピーター氏は、その答えの導き方をユーモアたっぷりに解説し、そのたびに笑いと驚きの声が上がりました。何度かジャグリングを披露してくださる場面もあり、間近で見ると大きな拍手が起きました。

今回の講演会は、時折、北海道弁を交えながら語るピーター氏のお話から、北海道のよさ、ふるさとのよさを再確認することができた温かな会となりました。

懐かしの母校を堪能
「ホームカミングデー」

百周年記念事業の二日目は、函館キャンパスの主催で「ホームカミングデー」が実施されました。「模擬授業」や「学食体験」、「地域プロジェクト発表」、「北方教育資料館・夕陽記念館公開」など、大学の協力で母校の今と昔を体験できるコーナーがたくさん準備されました。

ホームカミングデーは、学科の再編が行われた函館キャンパスの現在の取り組みについて、卒業生の方々に見て体験していただき、という思いを込めて開催されました。昔と変わらない校内を見ていただいたり、学食での食事を懐かしんでいたたり、そして新しくなった大学の教育内容を知っていただくことで、新たに夕陽会の仲間になるであろう学生達を知っていただくことが大きな目的の一つにありました。

「模擬授業」では、現在大学で講義を行っている飯山雅史教授から「ニュースが百倍おもしろくなる国際政治学」、池ノ上真一教授から「観光まちづくりの現状と課題」というテーマで講義を行っていただき、参加者に学生気分を味わってもらったことができました。学ぶワクワク感を思い出しながらの講義の体験でした。「校内見学ツアー」を担当したのは、現役の学生たち。一回り二十〜三十分で、懐かしい研究室や新しくできた講義室等を丁寧に案内してくれました。四十年ぶりに大学を訪れたと

企画
大学概要説明
模擬講義①
模擬講義②
海外スタディーツアー
ジョーシカル・タリニク
総合的な学習の時間
卒業体験
特別特別講義①の中心上級
特別特別講義②の中心上級
特別特別講義③の中心上級
地域アグリカル上級
地域プロジェクトバスツアー
北方教育資料館公開



いう卒業生からは、「昔の研究室の場所に連れて行ってもらいました」とうれしそうなおコメントをいただきました。案内する学生も、大先輩の話す当時の大学の様子を聞きながら、驚きの表情を浮かべながら、楽しそうに説明していました。

食堂での「学食体験」では、大学生協の協力で、学食で人気だった「A定食」「B定食」「カレーライス」「カツカレー」を思い出せるようなメニューを提供してもらいました。また、現在の大学生がよく食べているメニューなども加えてもらい、利用者からは大変好評でした。入り口の長蛇の列に、学生時代の昼時の風景を思い出す卒業生も多かったのではないのでしょうか。

「夕陽記念館公開」にも、多くの方に来場していただきました。卒業生の作成した貴重な美術品や当時の学生生活を語る品々が展示される資料館。百年という長い年月の間に多くの人材を輩出した函館校の歴史を改めて知ることで、記念館で、母校への愛情を深めることができました。ホームカミングデーを通して、夕陽会員の皆様に、ちょっとだけ学生気分を味わっていただくことができました。

(平成4年卒 太田千佳子 記)

北海道教育大学夕陽会創立百周年記念 美術・書道展

この度、六月二十三日（土）の記念式典・祝賀会および二十四日（日）の記念講演、函館校主催のホームカミングデーにあわせた日程で、二十一日（木）～二十四日（日）の間、北海道教育大学夕陽会創立百周年記念『美術・書道展』を開催し、期間中約一千人のご来場を得て無事終了することができました。現役学生や大学関係者、そして全国の会員の皆様から美術部門に四十三点、書道部門に五十七点を出品していただき、意図したわけではないのですが偶然にも百点の力作を北海道立函館美術館の特別展示会場に陳列する結果となりました。

本展覧会の開催にあたり多大なご協力を賜りました、北海道教育庁渡島教育局長 五十嵐 晋様、函館市教育委員会教育長 辻 俊行様、北海道立函館美術館長 堤 邦雄様をはじめ多くの関係の皆様衷心より感謝申し上げます。

さて、夕陽音楽会、書道展、美術展は、「行動する夕陽会」の具現化のひとつとして昭和五十二年に開催され、今日に至っています。一昨年（平成二十八年）に「夕陽美術展」を開催した折にも、当時文化部長の新濱美喜子校長先生のご指示で、文化部美術部門の先生方が、校務の合間を縫って、週休日返上の勢いで実

行委員会を立ち上げ、準備に取りかかりました。今回の百周年記念『美術・書道展』では、文化部のメンバーにそれぞれの教育研究サークルの先生方や、前回の美術展でもお世話になった展覧会企画の大ベテランであるサークルOBの鈴木秀明先生と横岸澤英二先生、書道では鈴木孝徳先生、さらには夕陽会副会長の繪面和子先生にも実行委員会に顧問として加わっていただき、的確なアドバイスのもと約一年前から計画を練り、開催に漕ぎ着けた次第です。展覧会開催までの道のりは遠く遠く感じられます。しかしその分、多くの来場者で展覧会が成功した時の充実感、



達成感のひとつおです。実行委員の皆様への感謝は勿論、美術館や関係の専門業者との調整、予算など細部にわたり気を配り実行委員会の企画・運営にご尽力いただいた書道部門の葛西広治先生、美術部門の木村伸仁先生には、お人柄、その行動力と求心力に本当に頭が下がる思いです。

道立函館美術館の館長はじめ職員の皆様には、本会が希望する開催時期の会場提供や展示作業に関する様々なご配慮を頂きました。書道部門委員の葛西先生の発案で、展示会場の一角に設置した「夕陽コーナー」もその一つです。その展示棚に、どうしても皆さんに見ていただきたい、私の自宅に大切に保管している「秋山沙走武彫刻展（作品集）」を、展示させていただきました。当時、彫塑研究室の学生の私たちをたびたびご自宅に招き、奥様の手料理や学生には手の届かない高価な飲物などを振る舞って下さいました。彫刻に関する専門的なお話や、悔いのない人生を歩むための様々なお話、武勇伝も含めて色々語ってくださり、それはそれは楽しい時間でした。職人氣質の強い方でしたから「師匠と弟



子たち」師弟関係がすっかりでき上がっていました。今でも何か困り事があれば、研究室の先輩である「兄弟子」に頼っている感じになりっぱなしです。

出品者の中には、現役で働きながら継続的に創作活動が続けている方や、ご退職後も創作活動に専念しておられる作家として著名な方も数多くいらっしゃいます。お恥ずかしい話、私などは現職での多忙を理由に、これといった創作活動なるものは縁遠くなっていますから、道立の美術館に自分の愚作を展示していただける機会などあるはずもなく、今回の出品は非常に貴重な経験でした。北海道教育大学夕陽会創立百周年記念『美術・書道展』の開催を通して、改めて、恩師や同窓との出来事を回想し、また会員同士の深い絆を再確認することができました。

繰り返しになりますが、開催にあたりご協力賜りました関係の皆様、出品いただきました会員の皆様、ご観覧いただきました会員や地域の皆様、そして展覧会の実現に向けご尽力いただいた実行委員の皆様感謝を申し上げます。

（昭和61年卒 仲井 靖典 記）

百年誌

陽

が

丘

参加者の声

夕陽会よ「とこしえ」に

奥野利夫

(昭和24年卒)

北海道教育大学夕陽会は、大正七(一九一八)年九月に北海道函館師範学校の第一回卒業生六十八名によって「函館師範学校同窓会」として創立され、平成三十(二〇一八)年をもって百周年を迎えることができました。

同窓の皆様のお手元には、紺地に金文字も鮮やかな「百年誌 夕陽が丘」が送付されていることと存じます。そこには百三十七ページにわた

り夕陽会百年の足跡が綴られております。それぞれのページを担われた執筆者の方々、編集に携わり一文字一文字丹念に読み深め、精査に当たった担当者、その一人一人の思いがこもった一冊となりました。

母校は今、夕陽会発足当時と比べて、その様相は大きく変化しております。一部、教員養成機能は維持したまま国際地域学科として新たな一歩を踏み出しています。

この「百年誌 夕陽が丘」には、百年間の歩みをしっかりと見つめ直し、これからの百年に向けて、新たな輝かしい歴史を刻もうとする夕陽会のあるべき姿を指し示す内容が満載です。

とりわけ、夕陽会百周年記念座談

会「現役学生と夕陽会の未来を語る」

は、来たるべき新たな百年に向けてその方向性を指し示す貴重な発言に満ちています。たとえば「人と人とのつながりから地域の魅力を創る」

「みんなで手を使って思いをつないでいこう」できないのはだれかが協力してくれないのではなく、助けってもらえるだけのものをこちらがきちんと考え、伝えていないからだ」「強い絆で結ばれ、温かな雰囲気

の夕陽会」などなど。生まれ変わった母校で学ぶ現役学生が、既に巣立った者たちと変わらぬ感性で夕陽会をとらえ、その母なる学び舎で勉学に励む日々の中で、感じ、考えた同窓の「思い」を強めていることがわかります。

同窓の皆様、どうか、本誌を身近に置き、実際に手にとって、ご精読いただきたいと思います。

なお、百年誌は各支部を通して現職会員及び前納会員の希望者に配付することといたしましたので、各支部にお問合せください。また、冊数に限りはありますが、本部事務局にご連絡いただければ郵送いたします。

(昭和60年卒 檉野 人範 記)

夕陽会の創立百周年式典に元気で出席できたことは、多くの会員とともに喜びに絶えず、うれしく思うところ

です。私は昭和十九年四月、母校の北海道第二師範学校に入学、そして昭和二十四年三月卒業となった古い時代の夕陽会員であります。

平成二年三月に古武井中学校を定年退職、渡島・胆振管内の八市町村に四十一年間お世話になりました。

昨年は米寿を迎え、今年は八十九歳。来年は卒寿の九十歳が目の前に迫って参りました。

昨年、家の中で足がもつれて転倒し、左足膝を痛め杖のやつかいになったが、これは二、三ヶ月ほどで、今では杖も飾り物になっています。

高齢ともなると出歩くことも大儀になります。この度の記念式典は大きな節目の行事であり、動けるうちに是非にと思い参加した訳です。

予想通り出席会員の中では昭和二十二年卒業の先輩がトップの高齢で私が二番目でした。

夕陽会創立百周年記念式典・祝賀会そして百年誌「夕陽が丘」等、それぞれの諸準備を含め、藤川隆会長を中心に、永井貴之前幹事長その他実行委員の皆様の努力により、すば

らしい企画と運営でした。函館・渡島をはじめ、全道そして首都圏の方から参加した八百名を超える会員は、全て感激し、満足して帰られたことと思います。

なお、祝賀会の最後、全員での寮歌大合唱は最高の盛り上がりでした。八十周年に作ったと言われる夕陽会名称入りの法被を着せられ、ステージ上に引っぱり上げられて歌ったことは想い出としていつまでも残っております。

私共昭和二十四年卒は卒業時に百二十名でしたが、一足早く旅立った者八十七名。残っている者三十三名です。この中でも函館・渡島に居住している者は七名のみで、車椅子の世話になっている者、通院を日課にしている者、各自それぞれ年齢相応の生活を続けています。私も歩行困難になりつつあり、車が一番便利なのですが、来年の免許更新時で免許返上し、若い者に迷惑かけない決心をしています。

今後は健康維持のため、今までどおり家庭菜園で体を動かし、世の動きに関心を失わずに夕陽会の「とこしえ」を祈りつつ生きていきたいと思っております。



第二の故郷

天野 久

(昭和56年卒 和歌山県)

夕陽会創立百周年の記念式典・祝賀会に参加させていただき、感動の連続でした。準備・運営をいただいた皆様、どうも有り難うございました。また、会報に執筆させていただきましたことを大変嬉しく思います。学生時代は、特急「白鳥」で大阪・青森間を十三時間三十分。青函連絡船で朝の四時に函館と家からほぼ一日の旅でした。また荷物も一週間もかかり、友達に手伝ってもらって五稜郭駅に受け取りに行ったものです。しかし今回の帰りは、空港から自宅まで四時間、お土産も次の日にと、本当に近くなったことを実感しました。

現在は、生まれ育った実家で両親と同居し、今年度で無事、定年退職を迎えようとしています。教員志望だったので、地元の教育学部に進学するのが自然な流れでした。しかし、『一生、和歌山から出ないのはいやや。』『第二の故郷が欲しい』という思いが強くなり、両親を説得し、森町に母方の親戚がいたこともあり函教大に進学することになりました。今回は、ラグビー部の同僚の磯貝君や佐々木君から『みんなが集まろう』と誘って頂き、参加することになりました。

前日は、駅前の居酒屋で十数人の仲間との再会。卒業以来という隔たりもなく思い出話をつまみに飲みました。祝賀会当日はレンタカーを借りての市内観光。函館山などの観光スポットより、みんなの下宿めぐりが最高でした。町並みも大きく変わ

り、下宿もリニューアルされてたり、取り壊されたりと色々ありましたが、出るは出るは思い出話。みんなの記憶を繋げていくと学生時代にタイムスリップしたようでした。一日早く学校見学もしました。研究室もさることながら一番の思い出はグラウンド。草にまみれたスクラムマシーンを見て寂しい気持ちになりましたが、当時の練習のこと、遠征のこと、雪上ラグビーのことが走馬燈のように思い出されました。

祝賀会では、参加者の多さに驚くとともに、夕陽会の結束の強さを肌で感じるのができました。会では、クラブの伊藤先輩や後輩の木村君・星野君・新沼君との再会。今年はラグビー部創立五十周年。OB戦の復活を誓いあいました。

他にも、遠洋船からの冷凍イカの積み降ろしや市電のバッテリー交換など、バイトの思い出も書きたいことが山のようにあります。

『人生に無駄な経験などひとつもない』充実した教師人生を無事終えられるのも、失敗も含め四年間の経験と、仲間と共に過ごした時間、そしてラグビー部。これらすべてが今の自分の大きな財産になっています。今後の人生においても、夕陽会員であることを誇りに思い続けていきたいと思えます。最後に、お世話になった諸先輩方の御多幸と、これから活躍されるであろう後輩達も、人生の節目で、函教大進学を誇りに思える人生を歩まれることを祈念します。



在校生として迎える百周年

富塚 汐音

(北海道教育大学函館校 国際地域学科 地域協働専攻 地域環境科学グループ 三年)

この度は夕陽会創立百周年、おめでとうございます。今回、私は国際協働グループ四年の田中継美さんと共に夕陽会創立百周年記念のポスターを作成させていただきました。このような記念すべき年に在校生として関わることができたこと大変嬉しく思います。

私は普段、大人の方々とお話しする機会が少ないため、祝賀会に参加してみないかと言われたときはとても不安があり、その反面チャンスだとも思いました。祝賀会当日、指定されたテーブルに着くと、そこは私と一緒に出席した者の二人以外は親と同じくらいの年代の方々に囲まれていました。正直、なんてところに放り込まれたのだと思いました。しかし、せっかくの機会だからと話しかけてみると皆さんとても優しく、「北海道教育大学函館校」という共通の言葉で語り合えることの喜びを感じました。最後には頑張れよというお言葉までいただいて嬉しかったです。また、壇上で作成したポスターに込めた思いなどのお話もさせていただきました。そこで改めて祝賀会に参加している人の多さに驚くと同時に、函館校の歴史を感じました。最後に

おそろいの法被を着て歌う寮歌に、皆さんのパワーを強く感じる事ができました。

私は、今回の祝賀会に参加するまで、夕陽会がどのような会で、同窓会は果たして何をしてくれるのかがよく分かっていませんでした。私の周りでも夕陽会＝同窓会であるという認識を持っていない学生が多いのが現状です。今までの学生生活(小学校・高校)の中で、同窓会は卒業してから関わっていくものというイメージがあるからなのではないかと思えます。もっと夕陽会と学生の関わる機会が増えるといいなと思えました。また、学校祭や図書館の利用などの機会には学生以外でも大学内に入るができます。今の学生がどのようなことを勉強し、どのような活動をしているのか見ていただくことができます。是非、今の北海道教育大学函館校をご覧いただきたいです。

最後になりましたが、改めて夕陽会創立百周年、誠におめでとうございます。夕陽会がいつまでも続いていきますよう、ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



函館校吹奏楽部 オープニング演奏



夕陽會

創立100周年記念事業



道教育庁特別支援教育局長
磯貝氏



函館市副市長
中林氏



北海道教育大学長
蛇穴氏



川島氏、橋田氏、萩原氏



映像でつづる百年の歩み

記念式典

美術・書道展



北海道教育大学夕陽會
創設100周年記念美術書道展





渡島総合振興局長
小田原 氏



函館校キャンパス長
後藤 氏



渡島教育局長
五十嵐 氏



函館市教育委員会教育長
辻 氏



記念祝賀会



安島 氏に中川 氏から
記念品贈呈



函館校楽友会 校歌等披露

学生による
ポスター説明



函館校モダンダンスサークル
パフォーマンス

記念講演会、ホームカミングデー



ピーター・フランク 氏 講演会



学食での昼食



ミニ講義



学生プロジェクト研究発表



学生ガイドによる校内ツアー



就任ご挨拶



就任にあたって

副会長 三 觜 徳 久
(昭和57年卒 函館市立湯川中学校長)

この度、函館市中学校長会を代表して夕陽会副会長を仰せつかりました。今年度は、夕陽会創立百周年記念式典・祝賀会の開催という大きな節目でもあります。藤川会長はじめ役員の方々の指導をいただき、微力ながらこの大役の責を果たすことができよう努めてまいります。

私はこれまで初任の檜山をはじめ、渡島や函館の中学校で勤務してまいりました。どの地でも夕陽の先輩や後輩に恵まれ、よい関係を築きながら



就任にあたって

副会長 片 桐 由 博
(昭和57年卒 函館市立柏野小学校長)

この度、函館市小学校長会を代表し、夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。藤川会長をはじめ、役員の方々の指導を仰ぎながら、夕陽会の充実・発展のために微力ながら務めて参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

私は、昭和五十七年三月に母校を卒業し、後志管内の学校に十二年間勤務しました。後志管内も夕陽会の会員が多く、勤務校をはじめ、いろいろな機会に先輩の皆様にお世話になりました。そして、十二年もいる

ら三十六年間過ごすことができました。管理職になってからは単身赴任をすることがほとんどで、精神的にも肉体的にも辛いこともありましたが、今思えば、どの地でも常に夕陽の先輩からいただいた指導・助言が今の自分の学校経営の礎になっています。これまでにいただいた諸先輩の様々な高誼に應えるためにも、自分の実践や経験を後輩たちに伝え、夕陽の歴史を繋いでいきたいと思えます。今後ともよろしくお願いたします。

と先輩と呼べる関係の同窓もできました。今年六月の夕陽会創立百周年記念祝賀会では、当時お世話になった先生方の懐かしい顔がいくつもあり、時間も忘れ、当時の思い出話に花が咲きました。函館に勤務してからも、夕陽会の先輩方から様々な指導をいただき同窓の絆を強く感じています。この度の就任を機に、少しでも恩返しができるよう頑張つて参りますので、よろしくお願いたします。



就任にあたって

幹事長 白 川 卓
(平成5年卒 北海道教育大学附属函館中学校副校長)

この度の総会において、幹事長を仰せつかりました。真に微力であり、職責を果たすことができません。より精一杯努めてまいります。どうぞ本年六月の北海道教育大学夕陽会百周年記念事業では、私自身も大きな感動をいただきました。準備段階における企画力や事業の推進力、式典・祝賀会当日の皆様の笑顔や躍動感にあふれる姿に夕陽会の強い絆、そして函館や母校への熱き思いを改めて実感させていただきました。この人々と人とのつながりを大切に参りたいと意を新たにしたいところです。現在の母校は、卒業生の多くは民



就任にあたって

副幹事長 五十嵐 義 幸
(平成元年卒 北海道教育大学附属函館小学校副校長)

この度の総会において、副幹事長(組織部長)を仰せつかりました。もとより微力ではありますが、精一杯務めてまいります。ご支援のほどよろしくお願いたします。

私は、平成元年三月に卒業し、その四月より上磯町立浜分中学校に採用されました。新卒で教わった四年間は言うまでもなく、いつも周囲の先生方に教え助けられてまいりました。振り返ると、皆、夕陽会の先輩であつたなあと同窓のありがたさを今もって感じております。本年は、夕陽会創立百周年の喜びの年です。本部には、各支部や諸先輩から多くの電話をいただいています。

間企業・公務員等への就職であり、夕陽会会員もより多様な職種や場で活躍されています。会員の構成に大きな変化がみられます。函館や母校への熱き思いと強い仲間意識、その貢献や真摯な姿勢、情熱には、今までの夕陽と変わらぬものであることも、この百周年記念事業において実感することができました。お世話いただき、この就任を機に、少しでも恩返しができるよう、そして、夕陽会の一層の発展のために努めてまいります。不慣れで未熟ではございますが、皆様の御指導・御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いたします。

す。夕陽本部の電話が鳴ると、いつも少し緊張します。相手の顔が見えないからです。けれども、先輩のお声、お話はいつも温かく、夕陽の絆を大切に思つてくださっていることがひしひしと伝わってまいります。こちらの間違ひも労いの言葉で包んでくださり、夕陽会の仕事にはいつも感謝の毎日であります。副幹事長という役をいただき、大変嬉しく思いますとともに、責任の重さを痛感しております。不慣れで未熟ではございますが、皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いたします。



就任に当たって

(平成13年修了)

副幹事長 藤谷 毅

北海道教育大学附属函館幼稚園副園長

このたびの総会におきまして、副幹事長(庶務部長)を仰せつかりました。伝統ある夕陽会の本部役員として甚だ微力ではございますが、夕陽会のより一層の発展のために、粉骨砕身努力していく所存でございます。私は、平成三年三月に卒業し、四月より自身の母校である檜山管内奥尻町立青苗小学校に赴任いたしました。そこでは夕陽の先輩からの御指導・御鞭撻を受け未熟ながらも、教員としてのスタートを切ることができました。

そして、その二年後の平成五年七月十二日、北海道南西沖地震が発生

しました。その大きな揺れや最大三十メートル以上の津波によって、担任していた児童を含め数多くの死傷者が出るなど、大きな被害をもたらしました。毎日、心が折れそうな惨状でした。その時も、夕陽の方々の心身のバランスを保つことができませんでした。その夕陽の方々の優しさに助けられ、これまでなんとか教員をやつてくることができました。このご恩を、お返しできるよう、頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしく願います。

智慧を絞り奮闘する各支部

全国支部長会議、総会報告

夕陽会創立百周年記念式典、総会に先立って午後一時半より、ホテル函館ロイヤル二階ボールデンホールにて、二十三支部参加のもと、太田庶務部長の司会進行で全国支部長会議が開催された。

冒頭、藤川会長が夕陽会創立百周年事業推進にあたり、各支部長、役員へのお礼を述べた。そして、国際地域学科として前進する母校の現状と卒業生の進路状況が紹介された。公務員等、様々な職種で活躍する卒業生の姿、日本の教育を担う人材育成に尽力する母校、それを支える夕陽会の事業が語られた。続いて、伊藤副会長を議長に議事が進められた。

白川幹事長代行が平成二十九年度会務報告、花田財政部長が会計報告、武田監査が監査報告を行った。また、平成三十年度運営方針案、予算案についての話し合いが行われた。運営方針並びに推進事項では、①組織強化と運営の効率化②人材の育成③財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化④研究・研修、文化事業の奨励⑤母校への支援と地域への貢献⑥夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用等が提案された。中でも、母校の学科改編により多岐にわたる卒業進路を背景に、公務員・民間企業同窓生への会員加入促進や、若手会員の中核となる人材育成が挙げら

れ、就職対策や教員採用対策への支援が取り上げられた。

各支部の報告・交流は、時間の関係で二支部の情報提供に留めた。

岩手支部の田面木支部長は、先の東日本大震災に際して、夕陽会からの多くの支援への感謝と復興に向かう現況を語った。また、他分校卒業生も交えた交流の様子を紹介した。

網走連合支部の篠下支部長は、根室・釧路・帯広・網走の四支部が手を携える道東ブロック会議の様子を取り上げ、夕陽の仲間が増えていることや若い会員を集めた研修会が活発化している様子を紹介した。

引き続き、午後三時より平成三十年度総会が三階ロイヤルホールにて開催された。協議に先立ち挨拶に

立った藤川会長は、「創立百周年を迎え、夕陽会の新たな一歩を踏み出す大切な日」と切り出し、「記念すべき創立百周年記念事業が、六月二十一日にスタートした『創立百周年記念美術・書道展』に幕を開け、本日二十三日の記念式典・祝賀会、明日二十四日に母校を会場に記念講演会、母校見学と、会員の皆様、母校の職員や学生、多くの市民の協力・支援で大々的に開催されることに心より感謝を申し上げます」とお礼を述べた。

続いて議長に新沼潔氏(胆振夕陽)古森康晴氏(根室)木村秀治氏(青森西北五)を選出し、本部役員選考委員・議事録署名名人、記録者を確認後、議事に入った。

報告事項では、白川幹事長代行が平成二十九年度会務・事業報告で、各部の主な活動・会務を報告した。続いて花田財政部長が平成二十九年度会計決算報告として、通常会費会計、基本金会計の収支を報告した。母校関係の報告では藤川会長が国際

地域学科に改編し初めての卒業生がこの三月に巣立ち、民間企業・公務員・教員と大変高い就職率であったことを紹介した。また、教員志望の学生への支援、「公務員・企業支部」の創設に向けての取組を報告した。さらに、夕陽記念館の維持・補修や母校との連携、特に母校教職員の本会への温かい協力について伝えた。国際地域学科の「地域協働専攻」「地域教育専攻」では、特色ある教育が展開され函館市や江差町などで取り組まれている官学連携事業に母校が主体的に関わり、学生が熱心に研究を続けていることを報告した。これから報告事項については、すべて拍手をもって承認された。

協議事項では最初に白川幹事長代行が平成三十年度運営方針案・推進事項案・事業計画案を提案した。運営方針では、スローガン「創造し行動する夕陽会」を継続・発展させ、組織・運営の効率化をはじめ、本会の未来の姿を見据えた取組へと舵を切る必要性が話された。推進事項としては、

①組織強化と運営の効率化②人材の育成③財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化④研究・研修、文化事業の奨励⑤母校への支援と地域への貢献⑥夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用の六点を挙げて協力を求めた。次に、花田財政部長が平成三十年度予算案を提案し、全協議事項が提案どおり承認された。

また、本年度は役員改選期のため、役員選考委員会より新役員について提案があり承認された。今回の改選で、藤川隆会長が再任され、副会長に片桐由博氏、三替徳久氏、幹事長に白川卓氏が選任された。

会務報告



幹事長
白川川卓
(平成5年卒)

《一般会務》

- 2/10 第2回渡島支部支会長・幹事長会議、勇退者激励感謝の会に藤川会長が出席する。(函館)
- 3/16 函館校卒業式に藤川会長、太田副幹事長が出席する。(函館)
- 3/27 第2回本部役員会が開催される。(函館)
- 4/2 北海道教育大学合同入學式に藤川会長が出席する。(札幌)
- 4/9 100周年式典・祝賀会来賓挨拶依頼に会長が訪札する。(札幌・道庁等)
- 4/23 第4回100周年実行委員会が開催される。(函館)
- 5/18 会計監査を行う。(附属小校長室)
- 5/25 第3回本部役員会が開催される。(函館)
- 6/11 第4回本部役員会、顧問・参与会が開催される。(函館)
- 6/21 北海道教育大学夕陽会創立100周年記念行事(夕陽美術・書道展)が開催される。(函館)
- 6/23 平成30年度全国支部長会議・本部総会が開催される。(函館)
- 6/24 北海道教育大学夕陽会創立100周年記念行事(記念講演・ホームカミングデー)が開催される。(函館)

《支部総会・懇親会・同期会等》

- 4/7 函館市支部総会に藤川会長、太田・白川副幹事長が出席する。(函館)
- 4/21 夕陽会空知支部総会・懇親会に藤川会長が出席する。(岩見沢)
- 4/22 夕陽会札幌支部総会・懇親会に藤川会長が出席する。(札幌)
- 4/28 夕陽指導主事等会懇親会に藤川会長・白川幹事長代行が出席する。(札幌)
- 5/10 夕陽会釧路支部総会・懇親会に藤川会長が出席する。(釧路)
- 5/12 夕陽会函館市支部新会員・転入会員・幹事懇親会に藤川会長以下4名の事務局が出席する。(函館)
- 5/12 夕陽会小樽市支部100周年記念祝賀会に藤川会長が出席する。(小樽)
- 5/18 夕陽会渡島支部総会・懇親会に天野副会長が出席する。(函館)
- 5/19 夕陽会帯広十勝支部(巴湾会)総会・懇親会に太田副幹事長が出席する。(帯広)
- 5/19 夕陽会檜山支部総会・懇親会に藤谷副幹事長が出席する。(江差)
- 5/19 夕陽会上川支部総会・懇親会に白川幹事長代行が出席する。(旭川)
- 5/19 夕陽会渡島支部八雲支会総会・懇親会に藤川会長が出席する。(八雲)
- 5/19 夕陽会後志支部総会・懇親会に藤川会長が出席する。(倶知安)
- 5/31 夕陽会石狩支部総会・懇親会に五十嵐副幹事長が出席する。(札幌)
- 5/31 北海道学芸大学函館分校昭和33年修了「33会」に藤川会長が出席する。(函館)
- (平成三十年六月二十四日現在)

平成三十年度 夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

《推進事項》

- 1 組織強化と運営の効率化
会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と会運営の効率化を図る。
(1) 多くの同窓生が集うための広報活動や組織拡充の取組。(重点事項)
- 2 支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携。
(2) 企業・公務員会員の入会促進に向けた組織改編の取組。(重点事項)
- 3 女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画。
(4) 夕陽会報225、226号の発行。
- 4 人材の育成
人材の発掘と会員の資質・地位の向上を図る。
(1) 会員である道・市町村議会議員、首長部局職員、教育行政・管理職等との連携。
(2) 関係機関・団体に所属する会員との連携。
(3) 指導主事及び教頭等の学校管理職候補者の発掘と育成。
(4) 民間企業、地方公共団体に勤める若手会員の中核となる人材の育成。(重点事項)
- 5 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化
「つなぎ」「集う」視点から、諸事業の再構築と財政の効率的な運用に努める。
(1) 財政基盤の中・長期的な整備
- 6 策の検討。(重点事項)
(2) 諸業務、諸事業の見直しと再構築。
(3) 各支部と連携した諸会費の納入への取組。
(4) 研究・研修、文化事業の奨励
会員による個人及び協働の研究等を奨励し、明日の夕陽を担う会員等の研究・研修意欲の高揚を図る。
(1) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介。
(2) 各支部の研究活動等の支援。(重点事項)
(3) 「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成。
(4) 会員による文化事業の奨励。
母校への支援と地域への貢献
母校の継続と発展を願い、新学科の支援を行う。
(1) 母校の就職対策関係事業及び教授対策関係事業への支援。(重点事項)
(2) 在学生(会員予定者)に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動の実施。
(3) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。
(4) 学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。
夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用
夕陽記念館への、各種記念資料等の収集と適切な保存、展示、活用を図る。
(1) 会員の作品、記念資料等の収集と会報やWebページ等での周知。
(2) 夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備。(重点事項)
(3) 夕陽記念館の教育活用、学生・地域住民への開放などの検討。

夕陽会本部 事務局業務分担

庶務部

藤谷 毅(附属幼稚園長)
太田千佳子(附属特支副校長)

- 1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録
- 2 文書の収受、発送及び保管
- 3 会員の慶弔事務
- 4 その他、庶務に関する事

財政部

新谷 公康(北美原小長)

- 1 通常会費の徴収、支出事務
- 2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務
- 3 予算書、決算書の作成
- 4 前納会員に関する事務
- 5 その他、財政に関する事

組織部

五十嵐義幸(附属小副校長)

- 1 支部組織の編成と組織強化対策
- 2 会員の動態調査(支部別、校種別会員名簿)
- 3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集
- 4 その他、組織全般に関する事

情宣部

樫野 人範(石崎小長)

- 1 「夕陽会報」の発行
- 2 事務局報の発行
- 3 その他、情宣に関する事

web委員長

佐々木正幸(桔梗小長)

- 夕陽会ホームページの作成とその管理

文化部

仲井 靖典(知内中長)

- 1 会員の文化活動に対する支援
- 2 文化事業(音楽会・美術展・書道展等)の企画、実施
- 3 その他、文化に関する事

研修部

吉田 敬三(万年橋小長)

- 1 会員の地位向上対策
- 2 会員の個人及び共同研究への助成
- 3 支部・ブロックにおける研修活動に対する支援
- 4 その他、研修に関する事

厚生部

工藤 勉(湯川小長)

- 1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施
- 2 記念資料及び会員の作品収集
- 3 夕陽記念館の整備、充実
- 4 その他、厚生に関する事

受賞(章)おめでとうございます

※函館市体育協会スポーツ功労賞(日30年3月)

中西 博英氏 昭37年卒

函館市東山一の七の五

※函館市体育協会スポーツ功労賞(日30年3月)

絹野 重治氏 昭40年卒

函館市桔梗四の五の六

※従五位瑞宝小綬章(高齢者叙勲3/9)

小川 智博氏 昭36年卒

七飯町字中野一一八の一三

※正六位叙勲(高齢者叙勲3/9)

佐藤 正起氏 昭23年卒

函館市桔梗三の二三の二

※函館市市民貢献賞教育文化功労

円山 博司氏 昭29卒

函館市花園町二の四二の九

※瑞宝双光章 教育功労(11/3) ※日29年度秋の叙勲にて受賞

佐々木 征一氏 昭34年卒

札幌市北二五西九一の一の一四〇六



平成三十年度支部役員名簿

（札 幌）	長本間雄一	昭58	札幌市	苗穂小長
副木村まどか	昭58	札幌市	豊園小長	
副加藤貴子	昭59	札幌市	あつべつきた幼長	
副野間仁	昭59	札幌市	山鼻中長	
幹荒川幸明	昭58	札幌市	東橋小長	
（石 狩）	中央	昭61	札幌市	福移小中長
長武田淳	昭58	千歳市	緑小長	
副加賀谷隆	昭57	江別市	江別太小長	
副若命泰寛	昭58	千歳市	末広小長	
幹數井雅之	昭58	江別市	江陽中長	
會中村伸次	昭61	千歳市	東千歳中長	
（後志夕陽）				
長新井融	昭59	余市町	黒川小長	
副廣崎司	昭58	倶知安町	北陽小長	
副橋本直樹	昭58	共和町	東陽小長	
幹小林稔史	昭59	留寿都村	留寿都中長	
會原田益明	昭12	余市町	大川小長	
會早坂光平	昭18	倶知安町	倶知安小論	
（小樽）				
長上泉哲	昭58	小樽市	山の手小長	
副柴田眞公子	昭58	小樽市	桂岡小長	
副木村俊夫	昭60	小樽市	長橋小長	
幹若林晋	昭63	小樽市	潮見台小長	
會柴田佳代子	昭61	小樽市	稲穂小論	
（上川）				
長清水孝徳	昭61	旭川市	正和小長	
副石本周司	昭4	旭川市	末広北小論	
副清杉陽一	昭9	旭川市	緑新小論	
幹奥野清隆	昭2	東川町	東川小論	
幹佐藤幸子	昭6	旭川市	神居東小論	
（宗谷）				
長長谷川富夫	昭57	猿払村	浜鬼志別小長	
副佐藤佳弘	昭61	利尻富士町	鴛泊中長	
幹三野宮誠一	昭4	猿払村	浅茅野小長	
（留萌）				
長秋葉之	平成元	留萌市	港北小長	
副熊倉弘	昭3	留萌市	東光小頭	
副長尾聰美	昭62	苫前町	苫前小論	
幹佐藤斗美	昭16	増毛町	増毛小論	
會木原由香子	昭6	留萌市	留萌小論	
（釧路）				
長大海厚	昭57	釧路市	青陵中長	
副大森仲	昭57	釧路市	大衆毛小長	
會川原千暢	昭3	本別町	本別中央小頭	
幹原見寿史	昭58	音更町	音更小長	
副中村真也	昭59	豊頃町	豊頃小長	
副花井充弘	昭57	幕別町	白人小長	
長佐藤充	昭57	帯広市	緑園中長	
（帯広十勝）				
會小嶋範彦	昭2	えりも町	えりも小長	
幹中山重信	昭61	えりも町	笛舞小長	
副五十嵐英明	昭61	新ひだか町	山手小長	
副大石恭義	昭59	浦河町	浦河東部小長	
長金澤寛	昭60	新ひだか町	三石小長	
（日高）				
會大塚志保	昭4	苫小牧市	樽前小頭	
幹橋本誠司	昭60	室蘭市	白蘭小長	
副立花和実	昭59	伊達市	伊達中長	
副中塚洋司	昭57	室蘭市	蘭北小長	
副大山公敏	昭56	苫小牧市	苫小牧東中長	
長新沼潔	昭59	登別市	緑陽中長	
（胆振夕陽會）				
會大山口英輝	昭7	美瑛市	南美瑛中頭	
幹河村克也	昭62	雨竜町	雨竜中長	
幹笠原真樹	昭4	滝川市	江部乙中頭	
會小笠原英	昭7	美瑛市	南美瑛中頭	
（根室）				
副佐々木祐治	昭57	岩見沢市	幌向小長	
副岩倉隆	昭59	三笠市	萱野中長	
副中島淳	昭59	秩父別町	秩父別中長	
幹河村克也	昭62	雨竜町	雨竜中長	
會小笠原真樹	昭4	滝川市	江部乙中頭	
（空知）				
長佐々木祐治	昭57	岩見沢市	幌向小長	
副岩倉隆	昭59	三笠市	萱野中長	
副中島淳	昭59	秩父別町	秩父別中長	
幹河村克也	昭62	雨竜町	雨竜中長	
會小笠原真樹	昭4	滝川市	江部乙中頭	
（特別支援學校）				
長竹内哲	昭61	帯広市	帯広市	
副首藤啓美子	昭56	稚内市	稚内市	
副伊藤友紀	昭2	平取町	函館市	
幹岡山努	昭12	函館市	北海道特別支援論	
（青森津輕）				
長白取彦	昭46	青森市	八幡林宇熊谷41―2	
副渡邊雄	昭51	平川市	金田小論	
副木村公浩	昭56	弘前市	県立弘前第二養護論	
幹湯田秀樹	昭63	青森市	県立青森第二養護頭	
會帰山幸博	昭2	つがる市	県立森田養護論	
（青森西北五）				
長木村修治	昭61	つがる市	つがる市教委指導課長	
幹澁谷隆行	昭4	五戸町	上市川小頭	
（青森南部）				
長芦名均	昭56	南部町	向小長	
副大浦和典	昭58	八戸市	八戸小長	
副中川俊也	昭59	八戸市	中沢中長	
幹松生大介	昭11	階上町	石鉢小論	
（岩手）				
長田面木樹	昭48	奥州市	奥州市教委教育長	
副村上政悟	昭51	盛岡市	東中野字五輪10―23	
副熊谷勇夫	昭52	花巻市	四日町3―2―3	
幹金沢子	昭50	宮古市	山口5―8―2	
會橋田孝	昭9	盛岡市	山岸小長	
（首都圏）				
代森屋宏	昭55	千代田区	鵜飼小論	
連石田恒久	昭55	八王子市	横川町923―37	
（網走連合）				
長藪下一己	昭59	網走市	潮見小長	
副佐藤秀樹	昭59	雄武町	雄武小長	
幹佐藤和俊	昭59	北見市	東小長	
（高等學校）				
長渡邉祐司	昭58	江差町	北海道江差高長	
副竹内琢	昭59	松前町	北海道松前高長	
副佐藤健	昭60	えりも町	北海道えりも高長	
副江尻巧	昭62	浜中町	北海道霧多布高長	
幹清水信彦	昭63	函館市	市立函館高頭	
（特別支援學校）				
長竹内哲	昭61	帯広市	北海道帯広養護長	
副首藤啓美子	昭56	稚内市	北海道稚内養護長	
副伊藤友紀	昭2	平取町	北海道平取養護長	
幹岡山努	昭12	函館市	附属特別支援論	
（青森津輕）				
長白取彦	昭46	青森市	八幡林宇熊谷41―2	
副渡邊雄	昭51	平川市	金田小論	
副木村公浩	昭56	弘前市	県立弘前第二養護論	
幹湯田秀樹	昭63	青森市	県立青森第二養護頭	
會帰山幸博	昭2	つがる市	県立森田養護論	
（青森西北五）				
長木村修治	昭61	つがる市	つがる市教委指導課長	
幹澁谷隆行	昭4	五戸町	上市川小頭	
（青森南部）				
長芦名均	昭56	南部町	向小長	
副大浦和典	昭58	八戸市	八戸小長	
副中川俊也	昭59	八戸市	中沢中長	
幹松生大介	昭11	階上町	石鉢小論	
（岩手）				
長田面木樹	昭48	奥州市	奥州市教委教育長	
副村上政悟	昭51	盛岡市	東中野字五輪10―23	
副熊谷勇夫	昭52	花巻市	四日町3―2―3	
幹金沢子	昭50	宮古市	山口5―8―2	
會橋田孝	昭9	盛岡市	山岸小長	
（首都圏）				
代森屋宏	昭55	千代田区	鵜飼小論	
連石田恒久	昭55	八王子市	横川町923―37	
（網走連合）				
長藪下一己	昭59	網走市	潮見小長	
副佐藤秀樹	昭59	雄武町	雄武小長	
幹佐藤和俊	昭59	北見市	東小長	
（高等學校）				
長渡邉祐司	昭58	江差町	北海道江差高長	
副竹内琢	昭59	松前町	北海道松前高長	
副佐藤健	昭60	えりも町	北海道えりも高長	
副江尻巧	昭62	浜中町	北海道霧多布高長	
幹清水信彦	昭63	函館市	市立函館高頭	
（特別支援學校）				
長竹内哲	昭61	帯広市	北海道帯広養護長	
副首藤啓美子	昭56	稚内市	北海道稚内養護長	
副伊藤友紀	昭2	平取町	北海道平取養護長	
幹岡山努	昭12	函館市	附属特別支援論	
（青森津輕）				
長白取彦	昭46	青森市	八幡林宇熊谷41―2	
副渡邊雄	昭51	平川市	金田小論	
副木村公浩	昭56	弘前市	県立弘前第二養護論	
幹湯田秀樹	昭63	青森市	県立青森第二養護頭	
會帰山幸博	昭2	つがる市	県立森田養護論	
（青森西北五）				
長木村修治	昭61	つがる市	つがる市教委指導課長	
幹澁谷隆行	昭4	五戸町	上市川小頭	
（青森南部）				
長芦名均	昭56	南部町	向小長	
副大浦和典	昭58	八戸市	八戸小長	
副中川俊也	昭59	八戸市	中沢中長	
幹松生大介	昭11	階上町	石鉢小論	
（岩手）				
長田面木樹	昭48	奥州市	奥州市教委教育長	
副村上政悟	昭51	盛岡市	東中野字五輪10―23	
副熊谷勇夫	昭52	花巻市	四日町3―2―3	
幹金沢子	昭50	宮古市	山口5―8―2	
會橋田孝	昭9	盛岡市	山岸小長	
（首都圏）				
代森屋宏	昭55	千代田区	鵜飼小論	
連石田恒久	昭55	八王子市	横川町923―37	
（網走連合）				
長藪下一己	昭59	網走市	潮見小長	
副佐藤秀樹	昭59	雄武町	雄武小長	
幹佐藤和俊	昭59	北見市	東小長	
（高等學校）				
長渡邉祐司	昭58	江差町	北海道江差高長	
副竹内琢	昭59	松前町	北海道松前高長	
副佐藤健	昭60	えりも町	北海道えりも高長	
副江尻巧	昭62	浜中町	北海道霧多布高長	
幹清水信彦	昭63	函館市	市立函館高頭	
（特別支援學校）				
長竹内哲	昭61	帯広市	北海道帯広養護長	
副首藤啓美子	昭56	稚内市	北海道稚内養護長	
副伊藤友紀	昭2	平取町	北海道平取養護長	
幹岡山努	昭12	函館市	附属特別支援論	
（青森津輕）				
長白取彦	昭46	青森市	八幡林宇熊谷41―2	
副渡邊雄	昭51	平川市	金田小論	
副木村公浩	昭56	弘前市	県立弘前第二養護論	
幹湯田秀樹	昭63	青森市	県立青森第二養護頭	
會帰山幸博	昭2	つがる市	県立森田養護論	
（青森西北五）				
長木村修治	昭61	つがる市	つがる市教委指導課長	
幹澁谷隆行	昭4	五戸町	上市川小頭	
（青森南部）				
長芦名均	昭56	南部町	向小長	
副大浦和典	昭58	八戸市	八戸小長	
副中川俊也	昭59	八戸市	中沢中長	
幹松生大介	昭11	階上町	石鉢小論	
（岩手）				
長田面木樹	昭48	奥州市	奥州市教委教育長	
副村上政悟	昭51	盛岡市	東中野字五輪10―23	
副熊谷勇夫	昭52	花巻市	四日町3―2―3	
幹金沢子	昭50	宮古市	山口5―8―2	
會橋田孝	昭9	盛岡市	山岸小長	
（首都圏）				
代森屋宏	昭55	千代田区	鵜飼小論	
連石田恒久	昭55	八王子市	横川町923―37	
（網走連合）				
長藪下一己	昭59	網走市	潮見小長	
副佐藤秀樹	昭59	雄武町	雄武小長	
幹佐藤和俊	昭59	北見市	東小長	
（高等學校）				
長渡邉祐司	昭58	江差町	北海道江差高長	
副竹内琢	昭59	松前町	北海道松前高長	
副佐藤健	昭60	えりも町	北海道えりも高長	
副江尻巧	昭62	浜中町	北海道霧多布高長	
幹清水信彦	昭63	函館市	市立函館高頭	
（特別支援學校）				
長竹内哲	昭61	帯広市	北海道帯広養護長	
副首藤啓美子	昭56	稚内市	北海道稚内養護長	
副伊藤友紀	昭2	平取町	北海道平取養護長	
幹岡山努	昭12	函館市	附属特別支援論	
（青森津輕）				
長白取彦	昭46	青森市	八幡林宇熊谷41―2	
副渡邊雄	昭51	平川市	金田小論	
副木村公浩	昭56	弘前市	県立弘前第二養護論	
幹湯田秀樹	昭63	青森市	県立青森第二養護頭	
會帰山幸博	昭2	つがる市	県立森田養護論	
（青森西北五）				
長木村修治	昭61	つがる市	つがる市教委指導課長	
幹澁谷隆行	昭4	五戸町	上市川小頭	
（青森南部）				
長芦名均	昭56	南部町	向小長	
副大浦和典	昭58	八戸市	八戸小長	
副中川俊也	昭59	八戸市	中沢中長	
幹松生大介	昭11	階上町	石鉢小論	
（岩手）				
長田面木樹	昭48	奥州市	奥州市教委教育長	
副村上政悟	昭51	盛岡市	東中野字五輪10―23	
副熊谷勇夫	昭52	花巻市	四日町3―2―3	
幹金沢子	昭50	宮古市	山口5―8―2	
會橋田孝	昭9	盛岡市	山岸小長	
（首都圏）				
代森屋宏	昭55	千代田区	鵜飼小論	
連石田恒久	昭55	八王子市	横川町923―37	
（網走連合）				
長藪下一己	昭59	網走市	潮見小長	
副佐藤秀樹	昭59	雄武町	雄武小長	
幹佐藤和俊	昭59	北見市	東小長	
（高等學校）				
長渡邉祐司	昭58	江差町	北海道江差高長	
副竹内琢	昭59	松前町	北海道松前高長	
副佐藤健	昭60	えりも町	北海道えりも高長	
副江尻巧	昭62	浜中町	北海道霧多布高長	
幹清水信彦	昭63	函館市	市立函館高頭	
（特別支援學校）				
長竹内哲	昭61	帯広市	北海道帯広養護長	
副首藤啓美子	昭56	稚内市	北海道稚内養護長	
副伊藤友紀	昭2	平取町	北海道平取養護長	
幹岡山努	昭12	函館市	附属特別支援論	
（青森津輕）				
長白取彦	昭46	青森市	八幡林宇熊谷41―2	
副渡邊雄	昭51	平川市	金田小論	
副木村公浩	昭56	弘前市	県立弘前第二養護論	
幹湯田秀樹	昭63	青森市	県立青森第二養護頭	
會帰山幸博	昭2	つがる市	県立森田養護論	
（青森西北五）				
長木村修治	昭61	つがる市	つがる市教委指導課長	
幹澁谷隆行	昭4	五戸町	上市川小頭	
（青森南部）				
長芦名均	昭56	南部町	向小長	
副大浦和典	昭58	八戸市	八戸小長	
副中川俊也	昭59	八戸市	中沢中長	
幹松生大介	昭11	階上町	石鉢小論	
（岩手）				
長田面木樹	昭48	奥州市	奥州市教委教育長	
副村上政悟	昭51	盛岡市	東中野字五輪10―23	
副熊谷勇夫	昭52	花巻市	四日町3―2―3	
幹金沢子	昭50	宮古市	山口5―8―2	
會橋田孝	昭9	盛岡市	山岸小長	
（首都圏）				
代森屋宏	昭55	千代田区	鵜飼小論	
連石田恒久	昭55	八王子市	横川町923―37	
（網走連合）				
長藪下一己	昭59	網走市	潮見小長	
副佐藤秀樹	昭59	雄武町	雄武小長	
幹佐藤和俊	昭59	北見市	東小長	
（高等學校）				
長渡邉祐司	昭58	江差町	北海道江差高長	
副竹内琢	昭59	松前町	北海道松前高長	
副佐藤健	昭60	えりも町	北海道えりも高長	
副江尻巧	昭62	浜中町	北海道霧多布高長	
幹清水信彦	昭63	函館市	市立函館高頭	
（特別支援學校）				
長竹内哲	昭61	帯広市	北海道帯広養護長	
副首藤啓美子	昭56	稚内市	北海道稚内養護長	
副伊藤友紀	昭2	平取町	北海道平取養護長	
幹岡山努	昭12	函館市	附属特別支援論	
（青森津輕）				
長白取彦	昭46	青森市	八幡林宇熊谷41―2	
副渡邊雄	昭51	平川市	金田小論	
副木村公浩	昭56	弘前市	県立弘前第二養護論	
幹湯田秀樹	昭63	青森市	県立青森第二養護頭	
會帰山幸博	昭2	つがる市	県立森田養護論	
（青森西北五）				
長木村修治	昭61	つがる市	つがる市教委指導課長	
幹澁谷隆行	昭4	五戸町	上市川小頭	
（青森南部）				
長芦名均	昭56	南部町	向小長	
副大浦和典	昭58	八戸市	八戸小長	
副中川俊也	昭59	八戸市	中沢中長	
幹松生大介	昭11	階上町	石鉢小論	
（岩手）				

前納会費納入会員名簿追加分

横山 慎一	苦小牧	昭56
齋坂 道雄	函館	昭55
岩元 広一	函館	昭57
稲岡 敬人	函館	昭55
花田 譲	函館	昭55
毛利 繁和	北斗	昭55
松本 克美	函館	昭55
坂本 晴子	函館	昭55
上山 恭男	函館	昭50
桑野 健一	七飯	昭55
高野 卓也	新ひだか	昭53

(敬称略 平成三十年九月三十日現在)

夕陽会員計報

妹尾 英治 氏	昭22	28・12・26
幕別町札内あかしや町43の40 昌憲氏		
田尾 嘉弘 氏	昭30	29・4・16
室蘭市港南町2の23の26 孝子氏		
岩崎 勇 氏	昭29	29・6・26
厚沢部町新町169の9 長女・眞美氏		
木村 亨 氏	昭19	29・10・24
函館市柏木町1の33 長女・眞美氏		
鹿毛 哲夫 氏	昭28	30・1・21
東京都世田谷区経堂1の1の2 池田亮子氏		
小川 智博 氏	昭36	30・2・10
七飯町字中野118の13 ムツミ氏		
佐藤 正起 氏	昭23	30・2・11
函館市桔梗3の23の2 マツ氏		
大坂 秀雄 氏	昭23	30・2・22
札幌市白石区北郷9の7の4の27 志郎氏		
菊池 雄尚 氏	昭30	30・2・25
北広島市朝日町1の5の7 玲子氏		
中村喜四郎 氏	昭33	30・3・13
北広島市稲穂町西6の1の11 倫子氏		
花田寅太郎 氏	昭25	30・3・19
北斗市追分4の7の31 富子氏		
木村禮壽郎 氏	昭33	30・3・27
北斗市追分2の9の34 長女・レオ菜氏		
高橋 豊 氏	昭41	30・4・1
函館市山の手1の20の3 一子氏		
伊藤 万喜 氏	昭24	30・3・22
函館市白鳥町20の20 繁氏		
萩野 榮夫 氏	昭16	30・4・13
静岡県沼津市高沢町10の22の303 和彦氏		
瀧口 隆士 氏	昭36	30・5・6
札幌市北区麻生町6の4の5 恵利子氏		
伊藤 裕之 氏	昭35	30・6・5
函館市松陰町31の5 和子氏		
日向 稔 氏	昭49	30・6・7
函館市山の手2の40の25 啓子氏		
皆川 清明 氏	昭29	30・6・17
札幌市西区発寒6の12 和子氏		
高市 一男 氏	昭24	30・6・
函館市松川町36の4 淳子氏		
落合マサエ 氏	昭25	30・6・22
札幌市西区山の手2の9の3の23 長男・浩文氏		
赤泊 昭吉 氏	昭23	30・3・7
函館市銭亀町245の39 レイ子氏		
新田 光男 氏	昭26	30・6・10
函館市市場町24の19 恵子氏		
竹田 榮悦 氏	昭26	30・9・19
函館市日吉町1の6の18 智氏		
生内一二三 氏	昭29	30・9・28
札幌市清田区平岡公園東4の1の8 聡氏		

(平成三十年九月三十日現在)

前納会費制度
ご利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお願いいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(三年に一度の発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載、その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

①大正年代の卒業生

五千元

②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者

一万元

③同じく昭和五十一年以降の退職者

二万円

④平成元年以降の退職者

三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆夕陽会創立百周年記念号となる会報二二五号をお届けいたします。今回も、多くの皆様から、夕陽会に対する熱い思いにあふれた玉稿を賜りました。紙面をお借りして、心よりお礼申し上げる次第です。

◆さて、九月六日未明、北海道胆振東部を震源として、あの東日本大震災にも匹敵する未曾有の大地震が発生しました。その影響で多くの尊い命が失われ、未だに避難生活を余儀なくされておられる方々もいらつしやいます。全道規模の停電が発生し、学校を含めた多くの職場がその機能を停止せざるを得ませんでした。◆このような困難な時こそ、「土地壘関」「人民蕃殖」の精神を持って、互いに手を携えながら乗り越えていきたいと考えます。同窓の仲間たちが、それぞれの役割を持ち、多様な現場で奮闘しています。これを機会に声を掛け合い、絆を深めながら助け合いの輪を広げていくことが大切ではないでしょうか。

(情宣部長 樫野 人範 記 昭60卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(0138)46-2235

夕陽会専用(0138)34-5520

FAX番号(0138)47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)